

[民生委員]

- 地域住民に民生委員活動を理解してもらい地域の中で皆で民生委員を選んでいこうという気運を作り出していくことが必要。
- 世話焼きが解決できないものを民生委員が拾って関係機関につなげる。この役割をやる人が(多くの)地域にはいない。また民生委員の後ろにいるべき人もいない。

[地区活動等]

- 自治会の福祉委員会などは、足元のニーズをぶつけても無反応で、ご近所から生まれてくるニーズに関心がない。
- 中間集団と自治会町内会とのうまい連携ができるとコミュニティの協働性が出来上がってくる。

<住民と行政との関係をどう考えるか>

- NPOやボランティアが、行政のひも付きや肩代わりにならないようにしてほしい。
- 自治体には住民「管理」の意識が強かったが、最近は「支援」に変化。市役所に行けば、住民や市民をエンパワメントするための情報やノウハウの提供(助成情報など)が受けられるというように頼られる存在になるとよい。
- 行政・政府の失敗、市場の失敗、ボランティアの失敗(お金やノウハウがない)。この3つの失敗を補い合う連携関係を上手に作っていくことが地域福祉の領域では大事ではないか。
- 自治体の行革の受け皿として地域がでてくるせめぎあい。高負担でなく高参加高福祉だが、身体で払って負担はしている。合併の中で地域福祉だけが地域で頑張れるのかどうか。
- 地域資源の健全な循環が必要(地域資源が疲れず、利権も生まない望ましい公共サービスのための資源の使い方)。